

## 解答

- 一 問一 A 地域 B 発想 C 立派 D 困〔る〕 E 否定  
F 許〔せ〕 G 同調 H 尊重 I 批判
- 問二 日本語の常識や価値観に合わない外国語の新しい概念を受け入れられないから。  
問三 新しい概念をまったく受け入れないか、礼賛するかの一方にかたよること。  
問四 ただ静かに受け止めること  
問五 生き方や習慣がいろいろちがう人々が集まっていること。  
問六 政治や宗教や価値観をひた隠しにして、だれとでもつき合おうとする態度。  
問七 A だれも食べ B 身近な体験例を挙げることで、自分の価値観にあわないものを批判すべきではないと言いたい。
- 二 問一 a オ b ウ
- 問二 黒糖は褐色の肌理に詰まった奥深い甘みと滋味が好ましいうえ、沖縄で戦死した兄とのつながりを感じたものだから。
- 問三 召集されて、遠からず兵隊にゆく兄を妹に会わせておきたかったから。  
問四 不知火海の魚介類のおかげで、飢饉や食糧難からまぬがれることができたということ。  
問五 多くの生き物が生息しているということ。  
問六 やあ、人間がやって来たぞ、早く逃げろ、かくれる。  
問七 戦争で多くの沖縄の人々が亡くなっているのに、私一人のために相手をわずらわせるのは心苦しいから。
- 問八 エ
- 三 問一 A ちかくの山〔へ出かけ〕 B 三日箸〔の材料となる〕 C 樫の木の新しい枝〔を〕 D 持ち帰っ〔てくる〕。  
問二 エ  
問三 作ったばかりの、初めて使う箸だから。  
問四 年初の三日間、これから一年間の無病息災や願いごとをこめながら箸を使うということ。  
問五 豊作や健康を祈って、正月に使った飾りものなどを燃やす行事。  
問六 三日箸を作るなかで、祖父への思いが募り、今も祖父とつながっているように思えたから。